



となって
里も明るく、
したい

「木の駅かわね」実行委員会委員長 杉山 嘉英

森林再生と地域活性化の
両立を目指す

この事業の目的は、森に眠っている林地残材を活用し、それを地域通貨で支払い、地域経済の活性化に役立てようというものです。それぞれ個人では価値を生まなかった山に転がっている材木をみんなで1カ所に集めることで価値を生む、それが木の駅事業です。初年度は60人の出荷者と20人の登録商店、集荷100トを目標としてスタートします。事業を推進していきながら、課題や事務、木材の流れを研究し、来年度以降は200ト、29年度には300トの集荷を目標にしています。最初計画を立てたときに300ト集まるかなと思いましたが、今日集まった40台の軽トラックを見て、この思いを皆で継続していけば必ず300トは集められる、こんな思いを新たにしています。

林業が低迷し、森林面積が94割を占めるわが町で、森と離れた生活や森と離れた経済で、本当に地域が元気になっていくのでしょうか。やはり森と深く関わっていくからこそ、地域の暮らしが守られて

いくんだと私は思っています。

その第一歩として、もう少しみんなが森に近づいて、森のことを考え、一緒に森づくりをする。そのきっかけに木の駅事業がなれば良いと思っています。もちろん、木材業界の情勢が大変厳しいということ、は、百も承知ですが、さまざまな経験を持った60人が集まり、森林組合、行政の知恵をお借りしながらやっていけば、必ず道は開けると信じています。

新たなネットワークの
創出に期待

静岡県では初めての木の駅事業です。われわれがうまくこの道筋をつけることによって、この流れがこの流域に、そして県内全体に広がって、静岡県が良くなったねと言われするような活動にしていきたいと思っています。もちろん、森林に眠っている木材の活用が主な目的ですが、その根底には仲間づくり、ネットワークづくり、発展していくのが大きな目的だと私は思っています。このような思いで今後も山づくり、励んでいきたいと思っています。

木の駅かわね キーマンに聞

Challenge²

地域が一体
森も明るく、
心も明るく

森林組合おおいがわ代表理事組合長
山下 喜隆

かけがえのない森林を
見直す機会に

木の駅については森林組合の研修として愛知県豊田市の木の駅を視察したのが始まりでした。それから約3年が経過し、川根本町でも「木の駅かわね」がスタートできたことを大変うれしく思っています。木の駅事業は林地残材の利用が主な目的ですが、町内の登録商店でしか使用できない地域通貨「ダラ券」を発行して林業の活性化だけではなく、地域経済、ひいては地域の活性化につなげていく事業です。また、木の駅は森林所有者だけが登録するのではなく、森林を持たない町内在住者や在勤者の皆さんでも森と地域を愛する心を持ち、一緒に協力していただける人であれば登録できます。森林組合はそ

の両面をサポートできるよう、木の駅の事業理念に賛同し、事業を応援します。

この木の駅が軌道に乗り、300ト集荷できる実績ができたなら、次はエネルギーの地産地消を目指したいという話も聞いています。将来はチップ材としてだけでなく、薪ストーブや薪ボイラー、さらには木質バイオマス発電などの分野に広がり、少しでも森の価値を生かす活動につながっていくことを期待しています。そのために、森林組合も総力を挙げて協力していきます。

木の駅事業をきっかけに、森づくりに光が当てられ、かけがえのない緑の社会資本として再認識していただけるよう、皆さんと一緒に地域を盛り上げていけたらと思っています。